



Japan Venture Awards 2012

独立行政法人中小企業基盤整備機構は2月22日、東京・港区の六本木ヒルズ森タワーアカデミーヒルズで「ベンチャーSPIRITS 2012」と合わせ、「Japan Venture Awards 2012」(JVA)を開催した。JVAは新たな事業の創出に積極的に取り組んでいるベンチャー企業を表彰するもので、最優秀賞にはミドリシの培養技術を軸に多彩な事業を展開する株式会社ユーグレナが選ばれ、中根康浩経済産業大臣政務官から経済産業大臣賞が贈られた。また中小企業庁長官賞はTerra Motors株式会社、株式会社ナノエッグが獲得、鈴木正徳中小企業庁長官から表彰状が贈られた。

ベンチャーSPIRITS 2012 in 東京

ベンチャーの創業・促進を目的に独立行政法人中小企業基盤整備機構が実施している「ベンチャーSPIRITS」。2011年度は東日本大震災からの復興を願って第1回を仙台で実施したのを皮切りに札幌、福岡、大阪と開催され、2月22日に東京・港区の六本木ヒルズで今年度最後の催しが行われた。会場にはベンチャー魂を持った多くの人たちが集まり、何かヒントをつかもうと基調講演、パネルディスカッションにと熱心に聞き入っていた。

※役職は、開催日(2012年2月22日)現在のものです。



開催報告



日時 2012年2月22日(水) 13:00～17:45(開場 12:30)

会場 六本木ヒルズ 森タワー アカデミーヒルズ 49F
(東京都港区六本木6-10-1)

主催：独立行政法人 中小企業基盤整備機構

後援：経済産業省中小企業庁、独立行政法人産業技術総合研究所、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、独立行政法人情報処理推進機構、独立行政法人科学技術振興機構、株式会社日本政策金融公庫、株式会社商工組合中央金庫、全国商工会連合会、公益社団法人経済同友会、日本商工会議所、東京商工会議所、日本ベンチャー学会、財団法人ベンチャーエンタープライズセンター、社団法人日本ニュービジネス協議会連合会、社団法人関東ニュービジネス協議会、社団法人日本ベンチャーキャピタル協会、全国地方新聞社連合会(順不同)



未来を切り拓け! 志高き挑戦者たちよ、立ち上がれ!

基調講演

「起業家の本質

—フレッシュネスバーガー創業物語とこれから—

「ベンチャーは、やるかやらないかの
どちらを選ぶかのゲーム」

現在の店舗数は180。他に香港8店舗、シンガポール2店舗。店舗売り上げは100億円だが本社売り上げは食材、加盟料、ロイヤリティーでなっている。ハンバーガー屋だがドリンクの売り上げが半分を占め、ハンバーガーは25%。原価ありきではなく、客が買ってくれる値段で原価率の高いハンバーガーを原価の低いドリンクで吸収できるような社内努力している。

私にとってフレッシュネスは第二の起業だ。16歳の時、

川越から東京の進学校に進み、落ちこぼれだったが校長に受験を進められ、日大の生産工学部の建築に入った。

積水ハウスへの就職が決まったら、民泊のアルバイト時代に客だった女性と新宿でばったり再会し結婚。その姉の夫がほっかほっか亭創業者の田淵道行だった。

入社後3年ほどしたときに田淵から連絡があり、ほっかほっか亭の構想を熟っぽく語られ、会社を辞める決意をした。

温かい弁当のテイクアウトのきっかけは築地にある吉野家の1号店。湯気が出ていて特盛りもあった。これらを鮭弁、トンカツ弁当にすればいいと考えた。プロだったらできない。ご飯を素手で扱ったら2時間で細菌が発生する。こういう怖さすら知らなかった。

資金はなく田淵の借りていた県営アパートで打ち合わせした。事務所なしに1年間で128軒を出店。2年目の昭和54年から地方を回り、4年で1000店になった。

急激に伸びるとどこかにひずみが来る。中毒があったり加盟店騒動があったり。そ

こで一部東部地域をダイエーにM&Aしてもらい体制を変更、資本増強も進めた。

ベンチャーには創業から成長、成長からリストラ、リストラから再安定、成長という4行程が必ずある。創業の時と成長の時はやり方が違う。だが他社と組んだ瞬間に辞めたいというメンバーも出た。そこで「魚がし日本一」を作り大きくすることで受け皿にした。

当時は1人、二十役、三十役で、経理や調理も営業、販促も何でもやらなくてはいけないので、一生懸命やっていた。そうこうしているうちに、会社は安定し、1人1役になってきて会議だけになっていた。

あるとき不動産屋に、何をやっても失敗するという渋谷の富ヶ谷の戸建てを15万円で紹介され、その日のうちに図面を描いた。それがフレッシュネスバーガーの始まりだ。

ベンチャーには出会いが必要だが、私の出会いは一人の男、一つの物件。ベンチャーはABゲーム。チャンスがあったときに、やるかやらないかのどちらを選ぶかだ。

「ツギが3回続くと運になり、運が3回つながらると実力になる」というがツギと運だけでビジネスは継続しない。6回もつなければならぬものに頼らず、ベンチャーの皆さんには、実力をつけて頂きたい。



FRESHNESS
BURGER

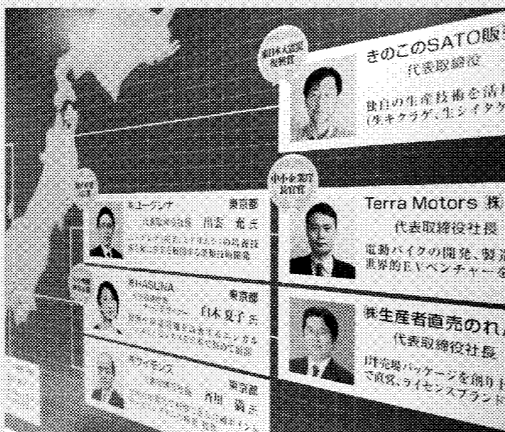
(株)フレッシュネス
代表取締役社長

栗原 幹雄 氏

プロフィール

1951年川越生まれ。日大の建築工学科卒業後、74年積水ハウス入社。78年に退社し、義兄とともに(ほっかほっか亭)の創業に参画し、大企業へ育て上げる(94年退社)。92年(フレッシュネスバーガー)1号店を創業。95年より多店舗展開。主な著書に「フレッシュネスバーガー手づくり創業期」(アスペクト)ほか。

会場風景



審査講評 & プレスカンファレンス



早稲田大学ビジネススクール
教授

柳 孝一 氏

今年の応募はバイオ、ものづくり、医療、環境など、大変バラエティーに富んでいた。ユーグレナの経済産業大臣賞は全員一致。CO₂と水と光で増殖するからこんないいことはない。中小企業庁長官賞のTerraMotorsは「ボーン・グローバル」。起業した時から世界を見据えていて、夢があっている。受賞各社の技術はどれも将来性に富んでおり楽しみだ。

